

【主題名】命を大切に 内容項目 「D-(18) 生命の尊さ」

【教材名】いただいたいのち（東京書籍 新しいどうとく3）

<あらすじ> ゆきは、小学2年生の夏に血液のがんになった。お母さんは、ゆきを優しく励まし、学校の友達は、ゆきのために血液がたくさん集まるようにとお願いの手紙を書いた。そのおかげでたくさんの血液が集まり、ゆきは、元気になった。「ゆきは、たくさんの人から命をいただいたのよ。」とうれしそうに話すお母さんの顔を、ゆきは忘れられない。

【ねらい】

☑ 内容項目の理解

生命の尊さを知り、生命あるものを大切にするという道徳的価値について指導する。

☑ 児童生徒の実態把握

命が大切だということは、学んできているが、命は唯一無二であり、尊いものであるということを実感していない児童が多い。

☑ 本時のねらいを設定する

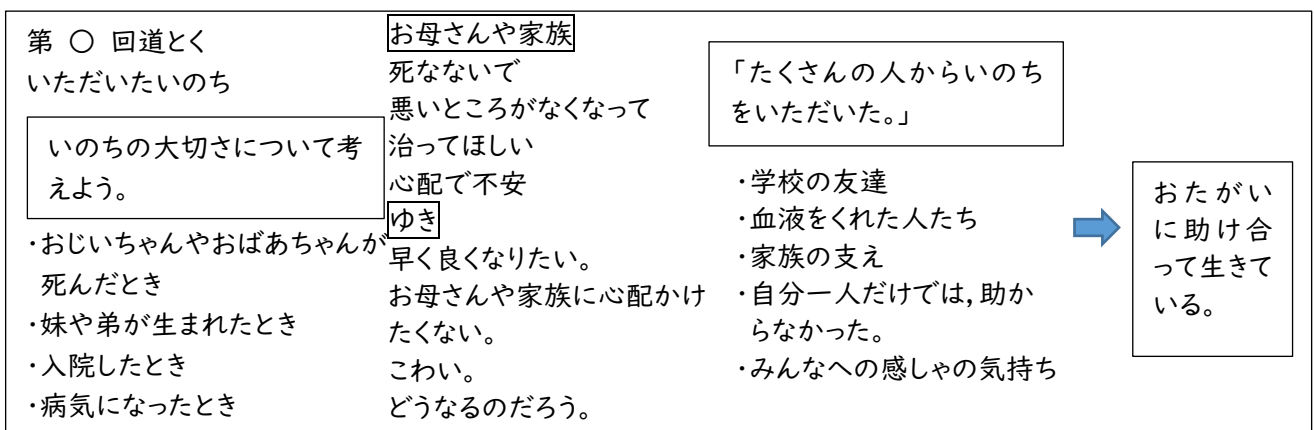
判断力 心情 実践意欲 態度

命の尊さを知り、生命あるものを大切に
する道徳的心情を育てる。

【指導の流れ】

段階	主な学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	<p>1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。</p> <p>○ これまで、命が大切だと思ったことはありますか。</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <p>命の大切さについて考えよう。</p>	導入の工夫
展開	<p>3 登場人物の心情を自分との関わりで捉える。</p> <p>○ 入院している間、お母さんや家族はどのような気持ちで過ごしていましたか。</p> <p>○ ゆきの友達は、どのような気持ちで過ごしていますか。</p> <p>○ ゆきは、どのような気持ちで入院していましたか。</p> <p>○ お母さんや友達はゆきのためにどんなことをしましたか。</p> <p>4 命の大切さについて考える。</p> <p>◎ お母さんに「ゆきは、たくさんの人から、いのちをいただいたのよ。」と言われたゆきは、どのようなことを考えたでしょう。</p>	自分との関わり 多面的・多角的
終末	<p>5 自己の生き方について考える。</p> <p>○ 命の大切さについてどのようなことを思いましたか。</p>	終末の工夫

【板書計画】



【評価】

ゆきと家族、友達の心情を考えることを通して、命の大切さについて自分との関わりで考えようとしていたか。